

「健康コラム特別編」

東日本大震災(東北地方太平洋沖地震) 仙台市在住の小児科専門医 川村和久先生による被災地レポート

3月11日午後2時46分頃、
マグニチュード9.0を記録する地震が東北地方太平洋沖で発生しました。
リアルタイムで情報を発信されたブログ及びツイッターを改編して掲載。



刻も早く救助されることを願っている。

救護所へ

カセットボンベの買い出し途中で、緊急呼び出し。波瀾に巻き込まれて身動きがとれず、狭い道であわててUターンしたら車の後ろをガードレールに避難所で子どもが発熱というところで、そのまま学校へ。校医をしている小学校が避難所となり、500人以上の避難者が。

インフルエンザと

診断し点滴を。合間に体育館を回り、校長はじめ、先生方に状況の説明を受けた。インフルエンザが流行しないことを願っている。



大地震だ!

午後の予防接種の時間帯に突然大きな地震が、あまりの揺れで一瞬倒壊。こういう言葉が頭をよぎる。時間も長く、立つてられない! 大きな悲鳴も飛び交う状況。クリニックにいた4組の家族とともに、スタッフは抱き合いながら余震の中で冷静に対応。被害の大きさが



写真は院長室。スチール製の本棚が倒壊してイスにぶつかった状態。もし自分がいたらと思うと...

害の大きさが気になるけど、停電でテレビも見えず、携帯もつながらない。暗くなるに連れて、不安が大きくなり、家に帰れないと訴える家族が。夜10時過ぎに

2日目の夜

未曾有の災害にもかかわらず、クリニックの周囲では大きな被害は無いようだ。しかし、荒浜で200以上の遺体が打ち上げられ、大火も起きているという。情報はラジオが中心で、時々車のテレビから。情報が不足している... 地元の方が情報不足。停電で真っ暗闇に加えて、救急車や消防車のサイレンも聞こえず不気味な程の静けさ。ラジオラインが復旧しない状態がいつまで続くのやら... 夜になるとすることが無い。キャンドルを前にして情報発信を試みるが、通信状態が悪くて何度も挑戦。避難所で夜を迎えているのと比べれば、自宅で過ごせるだけ幸せとは思ふ。寒いし食料の備蓄も心配。寒空の中で救助を待っている人もいる! 多くの被災者が一

ラジオライン

2日目の夜。借りている事務所に電気が通ったので一時避難。車で出かける途中、娘が、帰る頃には電気がつくような予感が。2時間程で帰ってくる、見事的中。信号がついている! 歓喜とともにハンドル操作を誤りそうに。自宅に戻りスイッチを入ると明かりが! こんな嬉しいことは久しぶり。明るくて暖かいというだけで幸せ。
4日目の夜、台所から「ポコポコ」と音が。何事かと覗いてみると蛇口から空気がとともに水が出ては止ま



りがたさを感じた瞬間。自分だけ喜んではいられない... 被災地での、一日も早い復旧を願っている。

流言飛語

保護者向けのメールニュースで、様々な情報を提供。連日10件以上の感謝、激励、心配事のメールを最も多いのが、放射性物質の不安。「有害物質が雲に付着して雨と一緒に降ってくるらしく、体が雨に接触しないように注意とのメールが届いた。」

災害や社会問題が起きると、人の心につけ込むような噂が飛び交う。ネット社会では、誰でも自由に情報発信が可能。この情報が正しく、この情報が誤りなのかを、しっかりと見極めることが大切。

物資配給

再び避難所へ。電気と水道の復旧に伴い150人程度まで減少。残っているのはお年寄り。食事はパックに入ったご飯とバナナとみかん。おかずは無く、味付けは味噌か梅干。バナナがびっくりするほど大量に届いていて、腐りそう。物資配給のバランスがとれ

ていない状況。足りないものはと尋ねると、暖かい環境と食事! 毛布も! 暖かいだけでも少しは気持ち

地震から一週間

患者さんが増えるに連れて悲しいことが。両親が津波にさらわれたと言葉につまる母親、働いていた老健施設が流され自分だけが助かったと涙する父親、住居が流され仙台に避難してきた家族、話を聞くたびに目頭が熱くなってくる。誰かに聞いてもらいたい。そんな気持ちを受け止めるのもかかりつけの重要な役割。

スタッフ

笑顔を見せているスタッフの顔にも疲れの色が、家に帰れない、ガス欠でバス通勤、誰一人休むことなく、愚痴も言わず、患者さんのために働いてくれた。金のわらじを履いて探しても見つからない。通えないだけで休診の診療所もあると聞いて、感謝感謝。

被災現場

20日、小児科医会会長として津波被害地区の避難所巡回。テレビで見るとは違う被災現場。目の当たりにする光景に、目を覆うばかりで言葉も出ない。

現状

危険家屋が10%近くあり、下水道が機能不全に

陥っているが、クリニックではラジオラインが復旧し普段と変わらない生活。街中の人々の後ろ姿は、何か悲しいものを背負っている。被害の大きい地域では、まだまだ多くの人たちが不自由で辛い生活を強いられている。

ママコン読者のお母さん達へ

震災で被災した方々にお見舞いを申し上げます。ともに、亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。
宮城県だけでなく、東日本全体、ひいては日本という国自体が大きな危機に直面しています。日本の明るい未来のため、思いやりの心を持って、手と手を取り合って、一人一人ができることを考えてみましょう。小さなこと、少しいいことでも、皆が力を合わせれば、きっと大きな力になることでしょう。未来を信じて、ささえあいの心を忘れずに、自分たちができることを考えてください。

詳細はブログ「ママコン」クリニック四方山話
<http://ameblo.jp/kodomo-clinic/>



小児科専門医 川村 和久
仙台市在住。仙台小児科医会会長。医療法人社団かわむらこどもクリニック院長。「お母さんの不安・心配の解消」を開業理念として、様々な子育て支援活動に取り組んでいる。
<http://www.kodomo-clinic.or.jp/>